

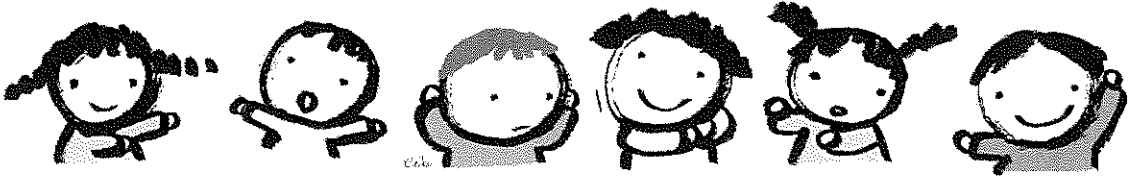
2024年度

クリスマス特集
No.1

こどもニュース

No. 14

11.21 発行

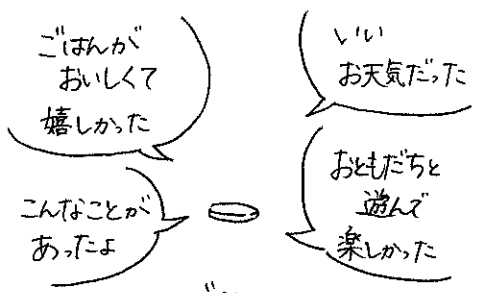


【クリスマスに向けて ～献金袋～】

10月が終わると、あちこちのお店でクリスマスソングを耳にしたり、飾りを売られているのを目にしたりするようになりました。今年は11月半ばでもまだ暑いと感じることもある今年、より一層「もうクリスマス!？」と思ってしまいます……。幼稚園でも少しずつクリスマスに向けての準備が始まりました。その一つとして、クリスマスのための“献金袋”作りが始まりました。

献金袋、と聞くと水曜日の登園時に子どもたちが首から下げている小さなものを想像する方もいるのではないのでしょうか。毎週の礼拝の中でも献金をお捧げしていますが、クリスマスの献金は特別な意味を持ちます。クリスマス献金とは、クリスマスの喜びを分かち合うこと、神さまの恵みへの感謝を込めて特別に捧げられるものなのです。

幼稚園では、クリスマスの本当の意味を知り、「もうすぐクリスマス! 楽しみだな」「神さま、ありがとう」という気持ちを皆で分かち合うことから始まります。献金袋を作るにあたって、それぞれのクラスで神さまから与えられている恵みについて、どんな時に“ありがとう”“嬉しいな”という気持ちになるかなどを考え、「たくさんの恵みにありがとうの気持ちをもって献金しよう」という話を子どもたちとしました。ぜひご家庭でも世界中で困っている人たちのことを思い、何かできることはないかなど一緒に考え、その思いを献金に託していただけたらと思います。

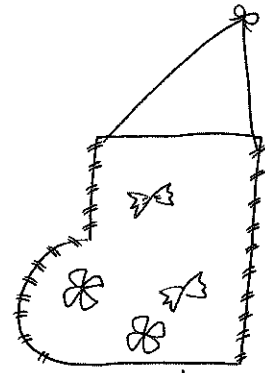


たくさんの“神さまありがとう”
“神さま大好き”を
献金に込められたらステキ

今年の献金袋は、ブーツ型! 画用紙を切り、飾りつけし、さらには毛糸を通して縫い取りも

行いました。

2 学期初め頃から子どもたちの遊びの中で『縫い取り』というマスコットのようなものを作っている遊びが広がっていたので、そこからアイデアをもらいました。その遊びを楽しんでいた子にとっては自信を持って作ってほしい、まだやったことのない子にも経験してほしい……そんな願いをもって計画しました。また、簡単にできてしまうものではなく、時間をかけて丁寧に作ることで、クリスマスの日を大切に思っしてほしいという願いもあります。イエスさまのお誕生を待ち望んでいた昔の人々もきっとそんな気持ちだったのではないかと思うからです。



にじみみも
“大きな南天金袋”と
ウキウキで作りました

完成した献金袋は明日(11/22(金))に持ち帰る予定ですので、よろしくお願いします。

12月21日(土)にアニー・ランドルフ記念講堂で行われる親子礼拝。クリスマス献金は、その受付でお渡しください。皆様から受け取ったクリスマス献金を、礼拝の中で神様にお捧げ致します。親子礼拝当日は、子どもたちが作った袋ではなく、別の入れ物に移して献金を持ってきていただいても構いません。会場の受付にてスタッフにお渡しください。

クリスマスの特別な献金袋いっぱい「ありがとう」「嬉しいな」「神さま大好き♡」がたまりますように……。

(ゆか.)

「東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びに溢れた」

(マタイによる福音書 2章9～10節)

クリスマスのストーリーには、イエスさまを探して旅をする一行が登場します。

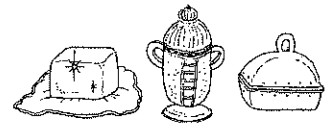
羊飼いと学者です。彼らは、社会的立場も年齢も人種も違う人たちでした。でも共通していることもありました。それは、これまで神さまを礼拝したことのない人、ということ。その人たちが真っ先に、誕生したイエスさまの前に招かれました。

これは不思議なことです。そしてここから2つのことが分かります。

- ① 神さまは、神さまを知らずに生きていた人を招いてくださること。
- ② イエスさまのところに導かれる方法は人それぞれである、ということです。

星に導かれてイエスさまのところに導かれた学者たち。

いつも星を見て研究する占星術の学者でした。占いは神さまから最も離れている職業だと思われていました。



そんな彼らを神さまは星を用いて導きます。夜空に「救い主の星」をかかげて誘うのです。学者が辿り着いたのはイエスさまの前でした。学者は喜んで礼拝をささげます。

学者たちの礼拝。イエスさまの前でひれ伏して拝んだとあります。なぜ偉い学者たちが、赤ん坊にひれ伏すことができたのでしょうか。本当に不思議な光景です。そして、持ってきた宝をイエスさまにささげました。黄金、乳香、没薬。それらはどれも、占星術に必要な物ばかりだったといいます。これまで自分たちの生活と命を支えてきた宝物です。それをイエスさまにおささげしました。なぜならば、自分たちを導くのは天体ではないことを知ったからです。天体をも導く神さまがおられ、そのお方が自分たちを見てくださった！この神さまの眼差しと導きを知って、学者は喜びに溢れたのでした。

こうしてイエスさまの周りは、不思議なお客さんでいっぱいになりました。羊飼いや、学者、そして・・・私たち！私たちを導いた星はそれぞれ異なりました。家族、友人、ミッションスクール、そして金城学院幼稚園。それまでは神さまのことを知らなかった私たち。生まれた場所も年齢も違う私たち。でも神さまは、私たちの身近なものをを用いてイエスさまのところまで導いてくださいました。神さまに愛され、導かれてきた親も子どもと一緒にイエスさまの誕生を祝います。喜びに溢れるクリスマスを！（山田麻衣子）





クリスマスにまつわる言葉

最近では、クリスマスに関係する様々な言葉を聞くようになりました。聞き覚えのあるものも多くなってきているのではないのでしょうか。幼稚園では27日(水)の礼拝からアドベントに入り、クリスマスを待ち望み準備する季節となります。イエス様がこの世に生まれてくださった意味を「クリスマスにまつわる言葉」を通して考えてみませんか。

アドベントクランツ

クランツは花、または葉の環状の編み物・花輪・葉環の意味です。常緑樹の枝で環(輪)を作り、ろうそくを立てたものです。

常緑樹の緑の環は「神様の永遠」を、ろうそくはキリストが「世の光」として来られる喜びを意味しています。常緑樹にはモミの木、ヒイラギ、カイツカイブキ、スギなどがよく使われます。

アドベントカレンダー

アドベントの期間、一つずつカレンダーをめくるようにし、イエス様を心に迎える準備をするものです。市販されているものは、12月1日から1日ひとつ、日にちの部分を開けていくものが多いようです。

幼稚園では、ひとりひとつずつ作った飾りを毎日飾りつけていき、全員が飾り終える日が讃美礼拝の日となるようにしています。

「今日は誰が飾るのかな」「私はいつ飾るのかな」とワクワクした気持ちで「待つ」ことこそ、遠い昔ユダヤの人々が、救い主の到来を待ったのと同じような思いにつながるのではないのでしょうか。

ハレルヤ

ハレルヤとは、ヘブライ語で「主をほめたたえよ」という意味です。ヘンデルのメサイアに出てくる「ハレルヤコーラス」は、どこかで聞かれたことはありませんか？

幼稚園では、讃美礼拝での一つひとつの事柄を子どもたちに伝えていく時間を「ハレルヤ」と呼んでいます。それは「本当のクリスマスを知る時間」「自分に与えられたクリスマスの役割について知る時間」そして「クリスマスの喜びをありがとうと讃美する時間」と考えています。

ハレルヤが始まると「クリスマスブック」というイエス様誕生のお話を書かれたオリジナルブックをもらいます。ご家庭でも一緒に読んだり、讃美歌を歌うなどして楽しみながらクリスマスまで準備してくださいね。また、幼稚園でも毎日使いますからリュックのポケットに入れてきてください。

